



土木学会・モンゴル土木学会 共催シンポジウム実施レポート

2007年6月8日、モンゴル国ウランバートルにて土木学会とモンゴル土木学会(Mongolian Association of Civil Engineers: MACE)の共催シンポジウム“Construction Management Systems and Planning/Design of High-rise Concrete Buildings(建設マネジメントシステムおよび高層ビルディング計画/設計)”が、第5回モンゴル土木学会通常総会と合わせて開催された。

今回のシンポジウムは、日本やその他諸国が保有する建設マネジメント、高層ビルを含むコンクリート構造物の計画/設計に関する学術的・実践的知識を交換することを目的とし開催されたものである。その実施については、公益信託土木学会学術交

流基金からの助成により運営された。また当シンポジウムの開催にあたっては高知工科大学とモンゴル理工大学が共同で組織・運営を行った。

開会に際してはモンゴル土木学会会長の Ganzorig Erdene 博士による開会宣言の後、土木学会の石井弓夫会長による開会挨拶が行われた。シンポジウムではモンゴルからの参加者2名を含む8名による発表が行われた。そのうち、7名の発表がシンポジウムのプロシーディングに記載されている。

シンポジウムには日本や台湾からの参加者を含め200名以上が参加し、ディスカッションタイムには活発な意見交換がなされた。

モンゴル土木学会はシンポジウムの参加者同様、当該テーマに関する経験と知識の交換という点でシンポジウムの成功を認め、将来的にも同様なシンポジウムが開催されることを希望する旨伝えてきている。

最後に、Ganzorig 博士、Gantumur 氏、モンゴル土木学会のスタッフおよびメンバー、モンゴル理工大学の諸先生方には、今回のシンポジウム開催計画に多大なる御協力をいただいた。この場を借りて心から感謝の意を申し上げたい。

(高知工科大学 草柳俊二、ニラウラ・ラジェンドラ)



シンポジウム参加者の集合写真(着席左から7番目が石井会長、その左どなりが高知工科大草柳教授/MACE撮影)

東京国際空港D滑走路 着工記念式典開催される!

2007(平成19)年5月20日(日)羽田空港内(日本航空西ライン整備ハンガー)において「東京国際空港D滑走路着工記念式典」を開催しました。

本事業は、羽田空港4本目の滑走路を整備し、年間の発着能力を現在の29.6万回から40.7万回に増強し、多様な路線網の形成、将来の国内航空需要に対応した発着枠を確保しつつ国際定期便の受入れを可能とするもので、2007(平成19)年3月30日に現地着工しました。

式典には、冬柴鐵三国土交通大臣をはじめ、多数の関係者が出席しました。中島威夫関東地方整備局長からの「羽田空港の能力拡充が全国から求められており、D滑走路の工事を安全・着実に進める事を誓う」との式辞に続き、冬柴国土交通大臣が「羽田空港の機能強化は、わが国にとって喫緊の課題。また、国際拠点空港である成田空港を補完し、首都圏における国際航空需要に对应していくために、成田空港と羽田空港を一体的に活用していくことが必要。2010年10月末の供用開始を目指して進められるが、事業の安全かつ着実な推進を図りたい」と挨拶。菅原東京都副知事、松原大田区長、泉信也参議院議員からの来賓祝辞、鍬入れなどを行いD滑走路の無事完成を祈りました。



東京国際空港 D滑走路着工記念式典

東京空港整備事務所ホームページ
(<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/index.html>)

(国土交通省関東地方整備局
東京空港整備事務所 佐瀬浩市)

「羽田空港」D滑走路展望施設 オープン!

東京国際空港D滑走路建設工事に関する情報を一人でも多くの方々に知っていただくため、羽田空港南側の三愛石油付近に展望施設を開設しました。展望施設からは、飛行機を間近に見ながら工事の状況を見学することができ、また、施設内にはD滑走路に関するさまざまな情報を展示しています。

東京国際空港D滑走路建設工事は、羽田空港における4本目の滑走路を整備するものです。本整備により、年間発着回数が29.6万回から40.7万回に増強され、国内航空需要に対応した発着枠を確保しつつ国際定期便の受入れが可能になります。長さ2,500mの新滑走路は、羽田空港南側海上に埋立・栈橋を組み合わせたものであり、世界でもあまり例をみない構造となっています。

2007(平成19)年3月30日に本工事着手して以来、さまざまな工事が実施されていますので、ぜひ一度見学にお越しください。

なお、見学をご希望の方は、下記問合先までご連絡ください。また、東京空港整備事務所ホームページ(<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/index.html>)では、D滑走路に関するさまざまな情報を随時アップデートしていますので、あわせてご覧ください。

問合先：東京空港整備事務所

D滑走路プロジェクト推進室



羽田空港 D滑走路展望施設

TEL：03(5756)6573

(国土交通省関東地方整備局
東京空港整備事務所 佐瀬浩市)

さぬき瀬戸の島々 24の島物語

土木学会誌2005年4月号に掲載されたコラム「さぬき瀬戸塾のリーダーの育成」(文：竹内守善香川県地域振興アドバイザー)の続編として、さぬき瀬戸塾が(財)福武学術文化振興財団の2005(平成17)年度瀬戸内海文化研究・活動支援事業より助成を得て作成した活動報告書「さぬき瀬戸の島々24の島物語」を紹介する。

活動報告書の大半は、瀬戸内海の茶粥文化を利用した島おこし活動にあてている。茶粥は、北前船で活躍した塩飽の先人によって近畿地方から塩飽に移入し、全国に伝播したと考えられる。塩飽では、塩分濃度の高い井戸水によく合う高知県大豊町で製造される乳酸発酵茶「碁石茶」を江戸期より使用している。碁石茶は、近年注目の植物性乳酸菌を利用した食品で、昨今の健康食ブームも相まって、農学、薬学などの研究機関から健康効果を立証する多くの成果発表がなされている。「大豊の碁石茶」として、2006(平成18)年度に農林水産省の地域食品ブランド表示基準制



さぬき瀬戸塾の活動報告書

度(本場の本物)に認定された。

茶粥の研究成果は、9月6、7日に瀬戸内海研究フォーラム in 香川(主催：瀬戸内海研究会議)で発表予定である。

また、塩飽諸島の丸亀市広島が土木学会第9代会長古川阪次郎(1858～1941)の出身地であることを掲載している。

この「さぬき瀬戸の島々24の島物語」は、各都道府県立図書館などに配布している。

(正会員 香川県小豆総合事務所
中西史和)

社会資本整備重点計画の フォローアップ

国土交通省においては、総合的政策評価を実施する一環として、社会資本整備重点計画(現行計画の対象期間は、2003(平成15)年度～2007(平成19)年度)の実施状況についてのフォローアップを実施している。さる6月21日に開催された社会資本整備審議会・交通政策審議会の第7回計画部会(兼第9回基本問題小委員会)においては、2006(平成18)年度までの進捗を踏まえたフォローアップの報告がなされた。

計画の重点目標としては、以下のようものが掲げられている。

暮らし：バリアフリー、汚水処理等



安全：水害・地震・火災対応等
 環境：自然再生、水環境改善等
 活力：国際競争力(空港・港湾・道路)、地域間交流等

上記の重点目標に対応して、計34の指標を用いての評価を行っているが、そのうち指標の実績値が目標達成に向けた成果を示しているものが

85%に達した。それ以外は、目標値に対して必ずしも十分な達成がなされていないもの、あるいは施策効果について判断困難なものである。これらの結果を踏まえ、引続き、いわゆるPDCAサイクルによる施策展開への反映を図っていきたいと考えている。

なお現在、同審議会などにおいて、次期重点計画の策定に向けての各種審議がなされている。そのなかにおいても、新たな指標設定や政策評価のあり方についても触れている。新計画は、最終的には来年夏頃、最終決定される予定となっている。

(正会員 国土交通省 東山 茂)

土木学会の本



2007年制定 舗装標準示方書

社会基盤施設を建設、改良、維持する場合の技術基準は、仕様規定から性能設計に移行しつつあります。

本書は、舗装についてその考えを適用する場合の標準を示したものであり、舗装に対する要求性能を設定してそれを照査するという性能設計体系としてまとめています。具体的には、荷重支持、走行安全性、走行快適性、表層の耐久性、環境負荷軽減の5つの要求性能と、荷重の大きさ、载荷回数、走行速度、温度の4つの変数により、アスファルト、コンクリート両舗装が共通的に設計できる形になっています。

本書は、道路、空港、港湾、鉄道ヤード等、全ての舗装施設を対象としておりますので、舗装の建設、改良、修繕、維持に関わる全ての方に有益な内容となっています。

- 編集：舗装工学委員会 舗装標準示方書小委員会(委員長：北海道工業大学・笠原篤)
- 2007年3月発行、A4判、335ページ、上製本
- 定価：3,990円(本体3,800円+税) ➡ 会員特価：3,600円
- 送料：590円

ISBN 978-4-8106-0417-7

お申込み・
お問合せ先

(社)土木学会・出版事業課/FAX注文書 126ページ
 TEL 03-3355-3445/FAX 04-2946-0969
<http://www.jsce.or.jp/publication/>

丸善(株)出版事業部
 TEL 03-3272-0521/FAX 03-3272-0693